

2024年5月4日（土）

老球の細道 795

「どこのドイツだ」は私です⑩最終回

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅱ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

【2009年12月30日、31日】

楽しいことは決まってあつという間に終わる。とうとうドイツとも別れの時がやって来た。朝一番、陽も昇らないうちにマイクロバスでドレスデン空港に向かう。ドレスデン空港はザクセン州都ドレスデンにある国際空港。ドレスデンといえば、第二次世界大戦の1945年2月13日から14日にかけてアメリカ軍とイギリス軍による無差別爆撃「ドレスデン爆撃」は歴史上あまりにも有名である。この空爆により、この街の85%が破壊され、3万人とも15万人とも言われる一般市民が死亡した。日本の広島と長崎原爆に匹敵する悲惨な空爆として今でも語り継がれている。6年前にドイツに来た時はドレスデンの街を観光した。この時見学した1732年に建立されたフリードリヒ・アウグスト1世の居城ツウインガー宮殿は圧巻だった。もう一度見てみたい。

小さな飛行機に乗って、あつという間に次のトランジット空港「フランクフルト空港」に到着。ここはドイツ最大の規模を誇り、ヨーロッパではロンドン・ヒースロー空港に次ぐ2番目の規模を誇る大空港である。外国のアクション映画を観ると、しばしばこの空港が登場する。「成田」行きの搭乗口までの距離が長いこと長いこと。運動不足には最適の移動であった。そのくらい広い。

年末とお正月をドイツで過ごすグループを除いて、全員無事何事もなくルフトハンザ航空成田行きに乗ってドイツを後にした。後は一路日本を目指すのみ。飛行機に乗ると乱気流に遭遇することがある。先日もワシントン発成田行きのアメリカユナイテッド航空機が乱気流に遭い、多くの日本人乗客がケガをした。私も過去にアメリカに行ったときに何度かそのような経験がある。その時は「もうこれまでか！」などと悲劇の主人公になり、何度遺書めいたメモ帳をスタンバイしたかわからない。運良くドイツでのフライトではそのような恐怖を一度も味わうことがなかった。

帰りの飛行機の中では今回の研修ツアーを振り返ったり、これからの次なる海外研修に向けての思いを巡らす時間となった。帰りはお酒を控えめにして、もっぱらコーヒーブレイクで脳にシワを入れた。思えば小学校の頃、休み時間のたびに遊んだのがプロレスと地名探しだった。特に地名探しは国土地理院の世界地図を開き、指定された地名を探すのがなぜか楽しかった。やっているうちにその場所に実際に行ってみようという夢が育まれた。しかし、当時は外国に行ける人などというのはごく限られた人とお金持ちだけだったので、私のような者は夢物語で終わっていた。しかし、しかし、願えば叶う。

色々なことを考えているうちにロシアのシベリア上空を通過して無事日本の成田に着陸した。すばらしい企画をしたエルトラック鈴木良和氏に感謝。すばらしい通訳をしてくれた伊豆倉さんへ感謝。総合プロデュースしてくれたトスティン氏に感謝。そして情熱あふれる若きコーチとの新しい出会いに感謝して今回のコーチ研修ツアーを締めくくった。

徒然なるままに日暮らしパソコンに向かひて、心にうつりゆくよきなしごとをそこはかとなく書きつくれば、あやしくこそ物狂うほしけれ〈室井健康〉。シリーズ終了です。